

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 計画

学校評価表作成について変更した点は朱書きしています

達成度(評価)  
 A: 十分達成できている  
 B: おおむね達成できている  
 C: やや不十分である  
 D: 不十分である

学校名	有田町立有田中部小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 県共通の重点取組について学年によっては「概ね達成」以上の評価であり一定の成果は上げられている。しかし、県平均を下回っている学年もある。今後は更に児童や保護者との意思疎通・連携を図りながら指導改善に生かしていきたい。</li> <li>■ 学力向上のための基礎基本の徹底を図るとともに、読解力を高める授業改善に取り組んでいきたい。</li> </ul>

2 学校教育目標	自ら気付き、人との関わりの中で自分らしさを発揮しながら課題解決に向かう児童の育成
----------	--

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 自ら考える力を培い、主体的で創造性豊かな児童を育て、学力向上を図る。</li> <li>② 自然や人間に愛情をもち、やさしく思いやりのある児童を育て、心の教育を充実する。</li> <li>③ 健康や安全に留意し、強い心とたくましい体の児童を育てる。</li> </ul>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1) 共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
● 学力の向上	○ 自ら学び続ける児童の育成につながる授業づくり	○ 児童アンケートにおいて肯定的に回答する児童の割合を80%以上にするを目指す。	・ 児童に身につけさせたい力をはっきりさせ、身についた姿(振り返り)をイメージした授業づくりを探る。	B	・ 授業後振り返りの時間を確保することで、教師自身が身に付けたい力を明確にした授業作りを行えるようになってきた。	B	・ 児童アンケートでは、振り返りに対する肯定的回答が70%、教員の意識調査では90%であった。7月調査に比べ、肯定的な回答が上昇した。	B	・ 中学校での学力の低下が見られるため、小学校からの継続的な取組に期待したい。	研究主任・研究副主任
● 心の教育	● 児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○ 児童アンケート「学校が楽しいですか」で、肯定的回答の割合を80%以上にするを目指す。 ○ 保護者アンケート「お子さんは、『学校が楽しい』と感じていると思いますか」で、肯定的回答の割合を90%以上にするを目指す。	・ ネット上の危険性、ルールやマナーについて授業を行うなど、情報モラル教育を充実させる。 ・ 児童の実態把握のためのアンケートを定期的実施し、児童理解に努める。	B	・ 職員への人権・同和教育研修会や全校児童が参加した平和集会等を通して平和の尊さと自他を思いやる心を育むことができた。 ・ 情報モラル教育の重要性を感じている。今後、児童や保護者への情報モラルについて学ぶ機会を作りたい。	B	・ 児童アンケートでは、肯定的回答が86%、保護者アンケートでは90%であり、ほぼ目標と同等であった。 ・ 具体的な問題は報告されていないが、潜在的な気になる行動が存在すると思われる。生活リズムの乱れなどの原因になっている可能性がある。	B	・ 学校としての取組は評価できるため、今後は家庭との連携を図り、取組の強化を期待している。	人権・同和教育担当 情報教育担当
	● いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○ 保護者アンケート「学校は、いじめ防止に向けた取組を適切に実施していると思いますか」で、肯定的回答の割合を75%以上にするを目指す。	・ いじめアンケートや「月のこころ」を有効に活用し、早期発見と対応を継続して行う。	B	・ 「月のこころ」については、全校としての取り組みが不十分だったため、もっと学校全体として児童のこころを知る意識を高め、支援につなげたい。 ・ いじめアンケートについては、早急に対応ができた。	B	・ 「月のこころ」については、学級での温度差があり学校全体での取り組みは不十分だった。また、各学級での小さな問題に関しては、各学級で早期に対応できていたが、よりよい学校を作り上げるためには学校全体として共通理解が必要だと思われる。	B	・ 1/4の児童が不安を抱えているということから、しっかりと足並みを揃え、取組む必要がある。	教育相談担当
● 健康・体づくり	● 児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	● 「先生はあなたのよところを認めてくれている」と回答した児童生徒80%以上 ● 「将来の夢や目標を持っている」児童生徒80%以上	・ 児童の実態に応じた道徳の単元構成や人権・同和教育の計画的な運用を図る。 ・ 将来への見通しが持てるように、キャリアパスポートの定期的な活用を行う。	B	・ ふれあい道徳の授業参観を全学級実施し、保護者へ公開することができた。 ・ キャリアパスポートの活用が不十分なので、職員へ活用を呼び掛けた。	B	・ キャリアパスポートについては、3学期に職員へ呼び掛けて各学年で活用することができた。来年度は年間を通して活用できるように、職員への呼びかけを定期的に行いたい。	B	・ キャリアパスポートの活用について、年度途中から修正し、活用できているところは評価できる。	道徳主任
	次の中から1つ以上を選択 ① 「運動習慣の改善や定着化」 ② 「望ましい生活習慣の形成」 ③ 「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ④ 「安全に関する資質・能力の育成」	● 授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒60%以上 ② 「早寝・早起き・朝ごはん」を奨励し、朝食摂取率の割合を90%以上を目指す。 ③ 「健康に良い食事をしている」児童生徒85%以上 ④ 児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	① 授業や学級経営の中で、体を動かすことの大切さや楽しさを感じさせる。 ② 「早寝・早起き・朝ごはん」は、心身の健康に大切なことを常に発信していく。(免疫力向上) ③ 教科等の時間や給食時間を通して食に関する指導を計画的に実施する。 ④ 月1回の生活指導を行うとともに、学年主任を中心とした取組を行う。	・ 朝食に関する食育指導を全児童を対象に行い、また、特に朝食摂取率が低い1年生の保護者を対象に給食試食懇談会を行い、朝食の啓発に注力した。 ・ 上期の時間外勤務時間の平均は40時間以内であった。夏季休業中の研修を工夫することで、7～9月の時間外勤務時間の平均は夏季休業中ということもあり、45時間を下回った。軽重を付けながら、指導力向上と業務削減の両立を図っている。	B	① 縄跳び週間や持久走週間を設けて、体力向上を図った。 ② 運動場の整備を行い、児童が安全に運動できる環境を整えた。 ③ 食育月間(6月、11月)に朝ごはんチェックシートを活用し生活リズムの定着を図った。 ④ 全クラスにおいて学級活動及び教科等の時間において食に関する指導を実施した。	B	② 朝食喫食率は、84%→86%と少しずつ上昇してきている。今後も地域の支援等も得ながら、家庭と連携した食育指導を行ってきたい。 ③ 健康に良い食事をしている児童の割合(5年生)は84%でほぼ目標と同程度であった。	B	・ アンケートからも運動習慣が少ないと感じる。外遊びの推奨を行い、家庭と連携しながら体力向上につなげてほしい。 ・ 各家庭も学校で習ったことを児童から聞くことで、我が家の習慣、食生活を振り返るきっかけになった。各家庭への食習慣の啓発が必要と思われる。
● 業務改善・教職員の働き方改革の推進	○ 「望ましい生活習慣の形成」	● 保護者アンケートの結果で、肯定的回答の割合を90%以上にするをめざす。	・ 定時退勤推進日を設定するとともに継続した声かけを行う。 ・ 学校閉庁日を設定する。 ・ 繁忙期とそうではない時期を明確にし、年間を通し、軽重を付けた働き方を行う。	B	・ 朝食摂取率が低い1年生は、食育指導や家庭への啓発を強化したことで80%→84%まで上昇した。	A	・ 朝食摂取率が低い1年生は、食育指導や家庭への啓発を強化したことで80%→84%まで上昇した。	A	・ 学年によって少ない所もあるが、朝食摂取率は高いので、このまま維持してほしい。同様に早寝・早起きもこころ緒掛けてほしい。	栄養教諭 保体部

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○ 開かれた学校づくり コミュニティ・スクール	○ 地域と連携した体験活動の推進 ○ 積極的な情報発信	○ 新型コロナウイルス感染防止対策を十分講じた上で、地域の人材を活用した体験活動を通して、地域との連携を進める。 ○ 保護者アンケート「学校の教育方針・内容を概ね知っている」の肯定的回答の割合を80%以上にするを目指す。	○ 地域の人材を活用した体験活動を通して、地域との連携を進める。 ○ 保護者アンケート「学校の教育方針・内容を概ね知っている」の肯定的回答の割合を80%以上にするを目指す。	B	・ 全学年において焼き物づくりに取り組んでいる。地域人材の指導を受けながら活動することができた。 ・ 地域民生委員との連絡会を行った。地区担当職員と地区の民生委員が話し合う場を設け、地区児童会での指導やPTA地区役員への報告など連携を図った。	B	・ いろいろな団体と関わるなど、学校として努力したことは評価できる。また少しずつ学校外へも出向くことができ、有田を知るなど交流を深められつつある。	B	・ 焼き物づくりや家庭科の授業支援など、地域の方々からの手伝いもあった。今後は担任の先生方も地域を理解し、いろんな場面で連携してほしい。それが今後の有田を受け継ぐことになると思う。	主幹教諭 教頭
○ 教職員の資質向上 (若手教員の育成)	○ 教員の授業力向上	○ 児童アンケートで「授業が楽しい」と肯定的回答の割合を85%以上、保護者アンケートで「授業を工夫している」の肯定的回答の割合を80%以上にするを目指す。	・ 若手同士が切磋琢磨できる環境づくりとして、授業づくりや学級経営に関して気軽に相談できる研修会を行う。 ・ 学年やグループ間の連携を図り、授業づくりについて日ごろから相談しやすい環境づくりを行う。	B	・ 学年主任がメンターとして、学習指導や生徒指導に係る情報交換を行い、若手の実践力向上を図っている。 ・ 若手の課題を洗い出し、解決できるような若手研修会を、ベテラン教諭を講師として行った。 ・ 学年主任会を開き、授業づくり・学級づくりに関する情報交換を行い、それを学年に還元することで若手の授業力・指導力の向上につなげたい。	A	・ アンケートで、「授業が楽しい」と肯定的回答をした児童の割合は85.1%、「授業を工夫している」と肯定的回答をした保護者の割合は81.1%であり、どちらも目標を達成することができている。 ・ 今後も計画的な研修会や日頃からの相談しやすい体制作りを行うことで、教員の指導力向上に努めていきたい。	B	・ 若い先生方のエネルギーをのびのびと発揮してほしい。 ・ 「楽しい」「工夫している」という声が学力アップにつながっていくことを今後は期待したい。	主幹教諭 指導教諭

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各アンケート結果を見ると、取組は、概ね達成できたと考えられるが、学力向上面では課題も見られるため、今後も校内研究を中心としつつ、小中連携も意識した良い授業づくりに取り組みたい。</li> <li>・ 行事や支援できそうな教科・内容に関しては、地域との連携を行うことができた。次年度は、コミュニティスクールの活用やPTAとの連携を図りながら、より地域の方との連携を強化したり、体験活動を行ったりしていきたい。また引き続き窓業についても体験などを通して、伝統等について学ぶ機会を設定したい。</li> <li>・ 個々の特性に応じた支援や指導内容を学校全体で共通理解し、声に耳を傾け、よりより学校生活が送れるように支援や指導を行っていく。</li> </ul>
----------------	---